

座談会「図書館進化論」

～令和元年度利用者アンケートから～

昨年度、附属図書館では利用者の皆さんを対象に、満足度を調査するアンケートを実施しました。たくさんの方にご協力いただき、様々なご意見を頂戴しています。

今回は「図書館進化論」と題し、今、弘大図書館に求められているものについて見つめなおし、これから我々がどのように変化していくべきかを、今泉医学部分館長をまじえて討論してみました。



左から
今泉分館長、長谷川係長（本館）、齋藤係長（分館）

——今回は、平成26年の本館改修以降初めての利用者アンケート実施でしたが、やってみて**どんな印象をもったか**、実施担当者だった長谷川さんはいかがですか？

長谷川:いつも利用している学生さん先生方はこんなことを思っているんだなというのを**改めて気づかされたことがいろいろ多くて**。

——今泉先生は集計をご覧になってどんな風に感じられましたか？

今泉 : (設問4の) 行かない理由ってのが、面白いんですけど(笑)、「利用しなくても不便を感じない」とか、「行く時間がない」とか……でもこれは、**不便を感じなくても行きたいなって思うようになってくれればいい**なとは思いますがね。

◆◆開館時間への要望◆◆

——特に**開館時間の拡大**についての希望がすごく多かったですね。それについては本館ではいかがですか？

長谷川:「開館時間を早くしてほしい」という要望には、4月1日から応えることになり、**試行的に8時半からに繰り上げたんです**。けど、それ以上に要望の多い「土日の延長開館」「24時間開館」については、人件費・光熱水費等の予算の確保、防犯やセキュリティ面からもなかなかハードルが高くて。ただ、以前にそうした話が出たときに、医学部の先生が睡眠も大事だっておっしゃっていたのがすごく印象的でした。

——今泉先生は、この点いかがですか？

今泉 : まあ、夜はやっぱり治安の問題がありますから、せいぜい22時というのは、落としどころとしてそのぐらいかなって。それが彼らの生活のリズムに貢献もできるのではという気がしますけど。朝8時半の開館は、8時半から9時までの間の利用者が多いことが望まれるので、私も協力したいです。(笑)9時からこっち

(文京地区)で何かある時には8時半に来て図書館に寄らせてもらおうというようなことをしたいな、と思います。

——授業や会議の合間の隙間時間にちょっと立ち寄ってもらえるような、そんなサービスができればいいですね。

◆◆静かな学習空間◆◆

——ところで、**静かに学習できるスペースについてのニーズ**もすごく多かった気がします。

今泉 : 学生の立場では、たぶん試験のための**勉強のスペース**っていう**需要が多い**んだろうなってのはわかります。

長谷川: グループラーニングルームはサークルでも使われているので、利用人数は右肩上がりです。でもその一方で、「静かなところで勉強したい」という意見もあって、**それぞれの勉強スタイルによって使いたい場所が違う**というのは、すごく感じます。

◆◆飲食エリアのニーズ◆◆

——あとは「**飲食可能にしてほしい**」っていう意見について、現場としてはいかがですか？

齋藤 : そうですね。医学部分館の方では、密閉できる蓋つきの飲み物は全面的に可にしています。やはり長



**弘前大学附属図書館
利用者アンケート**
調査期間: 令和元年11月1日(金)～11月22日(金)
調査対象: 学生、教職員、一般利用者
回答方法: Webフォームから回答
http://www.ul.hirosaki.ac.jp/guidetop/R1jissihokoku
※おカウンターで配布するアンケート用紙に記入
※本館内での回答は可です。ぜひご回答ください。
「図書館に行かない」というあなたの意見も貴重です。ぜひご回答ください。
弘前大学附属図書館 附属図書館 附属図書館 附属図書館 附属図書館

附属図書館利用者アンケート概要

調査期間: 2019年11月1日～11月22日
調査対象: 学生、教職員、一般利用者
回答方法: Web 及びアンケート用紙

詳しいアンケート集計結果はこちらからご覧いただけます。

<http://www.ul.hirosaki.ac.jp/guidetop/R1jissihokoku.pdf>

時間滞在する場合、飲み物が飲めないというのは不便だと思いますし…ちゃんとルールを守って使ってもらえればいいんじゃないかと思います。長谷川：今回他大学の状況を調べて、閲覧室も飲み物 OK にしている大学がほとんどで、今更ながら（本館で）場所を限定してたっていうのは、ちょっと遅れてたかなって思いました。4月からは閲覧室全面でオープンにしています。

——空間としての図書館のあり方っていうのは、うまくゾーニングすることで棲み分けしたり、いろんな運用のルールを変えていくことで、皆が快適に利用できるのかなって思いますね。

◆◆蔵書の充実◆◆

——さて、「改善・充実すべき点」では、「学習研究用図書の充実」とか「余暇・教養のための図書の充実」というのが多く挙げられていますね。

今泉：学部もいっぱいあって、卒研とかそういうので調べたりする分野も多岐にわたるので、全ての分野を網羅するっていうことは、ほとんど不可能だとは思いますが、必要なものはリクエストすれば買ってもらえるというシステムがあるので、もうちょっと皆が知っててもいいのかなっていう感じはしますね。

齋藤：そうですね。カウンターでそういう問い合わせがあったら、リクエストを紹介するとか、Twitterとかでも定期的に流すとかして、もう少し宣伝してもいいと思います。

長谷川：メールでもリクエストは受付してますしね。

◆◆余暇・教養のための図書◆◆

——今泉先生は普段たくさん本を読んでいらっしゃるようですが、**若者も大人も読書離れ**がさげられています。教養のための図書の充実についてどんな風にお感じになりますか？

今泉：本当は余暇とか教養のための図書っていうのは市立図書館とかで、大学図書館では専門書っていうのが本来の棲み分けだとは思いますが、でも、やっぱりまず、大学生、あるいは職員に本に親しんでほしい。今度医学部分館では、文庫本コーナーを設置していただいたので、少しPRして、皆に小説とかを読んでもらえたらなって思っています。

齋藤：学生さんからのリクエストも匿名で申し込めるようになっていきます。(笑)

今泉：なんか、学生さんとかの間で、スマートフォンをいじってるんじゃなくて、文庫本を読んでいるのがカッコいいなっていう文化が出てきたらいいなと、私は思うんですけど、教養っていうのも、大学の大事な使命だと思うので。もちろん専門は言うまでもありませんけれども。就職した後でも起業した後でも、専門だけじゃなくって、ベースとなる教養があるということがたぶん力になると思うので。

◆◆貸出条件の拡大◆◆

——それから貸出条件について、冊数を多くとか期間を長くしてほしいという意見も沢山いただきましたよね？

齋藤：なるべく多くの人に行きわ

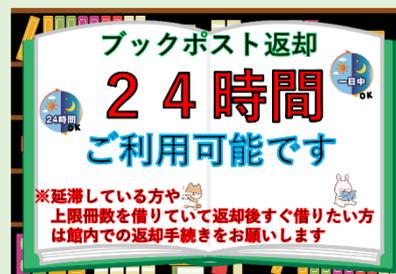
アンケートでのご意見にお応えする取り組み



本館の閲覧室全面で飲用可能になりました。長時間でも快適にご利用いただけます。



8:30 開館を試行中です。授業1コマ目が始まる前から利用できます。



返却用ポストを24時間利用可能にしました。時間がない時にもサッと返せて便利です。

2021年春 附属図書館雑誌棟が 生まれ変わります



附属図書館雑誌棟は2021年春のリニューアルにむけて、2020年8月より改修工事に入ります。

この改修では、シアター機能を備えたアクティブラーニングエリア、録画や動画中継ができるプレゼンテーション・スタジオ、飲食可能エリアなどが新設されます。また、2階はコンセント付きのワークデスクを配備した学習エリアに生まれ変わります。

利用者の皆さんの多様な学修・研究スタイルに対応できる、滞在型図書館を目指し、事業を進めてまいりますので、ご期待ください。

附属図書館雑誌棟 改修工事のお知らせ

雑誌棟の利用休止期間
2020年8月～2021年4月中旬

上記の期間は、雑誌棟にある資料は利用できません。

詳しい情報は附属図書館 HP でご確認いただけます。

<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>

リニューアル・オープン
2021年4月中旬（予定）

たせようと思うと、(分館は)7日間にせざるをえないという部分はあるかと思うんですね。

長谷川：他の大学では、開架の本は5冊までだけど、書庫の本は10冊20冊とか大量に貸していたりするようです。

一同：へえー。

長谷川：うちではそういう分け方をしていなかったの、そういうのもありかなと。

——新しい本については回転数を上げて、いろんな人が読めるように。書庫の本はじっくり読んでもらって。それはちょっと喜ばれるやり方かもしれないですね。

◆◆職員へのコメント◆◆

——最後に、私たち職員にもたくさんコメントをいただきましたよね？

長谷川：もっと厳しい意見がいっぱい書かれているのかなと思ったらそうでもなくて、私としては嬉しかったです。厳しい意見については、今後也十分対応には気を付けますという姿勢でたいです。

齋藤：ドキドキしました。どんなことが書かれているかと思うと、読むのが怖かったです。(笑)

長谷川：アンケートを見ると、「机の電気が点きません」とか、「寒いです」

とか、その時に言ってくれば、すぐ対応できたの、その場で言うって欲しいと思うことがいっぱいあったので、皆さんもっと気軽に声をかけてほしいです。

——声をかけづらい雰囲気を出しているのかもしれないね、私たち自身が(苦笑)。

今泉：いや、図書館の職員の方、皆さん良くやってらっしゃって、いい雰囲気だとは思いますが、例えば学生さんが本を借りていくときに、無言で本を出して、職員の方が無言で(本を)ピッとやって無言で渡してっていう、そういうケースって結構あると思うんですね。

齋藤：一応、返却期限は何日ですってのは言っていますが...

今泉：そこで、もうちょっとコミュニケーションとかがあったらいいんじゃないかなって僕は思います。

——職員自身も、もっとオープンな雰囲気を出す(笑)。私達は決して書庫の番人みたいになっちゃいけませんよね。そういう意味でも、中からもっと色々仕掛けていきたいですね。本日はありがとうございました。

(聞き手：広報委員 須田・丸山)

今回の座談会では、まだこの他にもお寄せいただいた沢山のご意見について議論が交わされました。紙面の都合上、すべてを掲載することができませんでしたが、一つ一つのご意見に対して真摯に向き合うとともに、改善・工夫をしながら、多様な学習・教育・研究スタイルをサポートできるよう、職員一丸となって「進化」をしていきたいと思っております。アンケートへのご協力ありがとうございました。